

平成30年度第1回神奈川県地方創生推進会議 意見整理表

NO	委員名	委員意見	対応	担当局(課)	二次評価
共通					
1	末永委員	地域で取り組んでいる取組みや県で取り組んでいる取組みについて、県や地域での主な取組みとしてはどういふものがあるのかを一覧表にできると、考えが分かり易いのではないか。	ご意見については対応可能かどうか検討してまいります。	各局 地域政策課	
2	三崎委員	本日の「参考資料」は、評価報告書の巻末にある年ごとの進捗状況が分かる表と重複している部分があり、あちこち資料を見ることが大変なので、これは一つにまとまらないか。	ご意見を踏まえ、評価報告書を修正しました。	地域政策課	
3	ジャーマン委員	次のステップで、もう少し総合評価や総合分析だけではなく、現場の声が必要になってくると思う。全体的に言えることだが、うまく行っていて流れに乗っている方々へのヒアリングが一つのヒントになると思う。次のステップに伸ばすために、県や我々のような客観的な意見を言う人、さらに結果が出た中で現場から上がっている声を聴くことで、そのことがこれからの目標へとつながっていくかもしれない。	総合評価欄に反映しました。	各局	
4	関委員	次のステップに向かってどうしていくかを考えることもしなければいけない、ということ盛り込んでいくことができると思う。総合評価欄の最後の○の書きぶりが、これだけだと、これまでの元々出していた目標について、それがどうだったかという形のまとめ方になっているが、当初の目標がどうだったかということに加えて、今後のことを少しここに盛り込んでいくとよい。		地域政策課	

NO	委員名	委員意見	対応	担当局(課)	二次評価
基本目標 1					
5	三崎委員	二次評価欄で、「生産年齢人口の就業率について、正規雇用・非正規雇用の分析を行った上で、不本意ながら非正規で働く人の正規雇用に向けた取組みをさらに促進する必要があります。」という意見について、その分析結果が分からないままになっていて、非正規雇用がどのくらいの割合か分からない。何か分析結果が分かるようなものというものをどこかに記載できないか。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	産業労働局	順調に進んでいます。 ・生産年齢人口の就業率について、正規雇用・非正規雇用の分析を行った上で、不本意ながら非正規で働く人の正規雇用に向けた取組みをさらに促進する必要があります。
6	三崎委員	二次評価欄で、「マッチングの成功事例を紹介するなど、…」と、いきなり書き出しがマッチングという言葉からスタートしており、これは何に対するマッチングなのかということが疑問になってしまう。	ご意見を踏まえ、二次評価(案)の記載を修正しました。	産業労働局	・観光産業の振興について、体験型ツアーの企画・商品化などの取組みが観光消費額の増加に目に見える効果として現れていないことから、その要因を分析し、効果的な取組みを進めていく必要があります。
7	今村委員	KPI「英検準2級以上の英語力を有する県立高校生の割合」が設定されているが、英語はたしかに非常に大事な言語だとは思いますが、しかしスペイン語や中国語の生徒が多くなっている。英語圏の子どもはほとんどいない。神奈川県は東南アジアの人々が非常に多い県だと思ふ。外国籍や外国語を母国語とされる方が仕事をする面や、(外国語教育を)指導していただく場所などを作っていくとよい。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	教育局 産業労働局	・中小企業が必要とする人材とのマッチングについて、成功事例を紹介するなど、専門的知識・ノウハウを持ったプロフェッショナル人材の認知度向上に向け、取組みをさらに進めていく必要があります。
8	今村委員	英語を英検準2級で測るというよりは、学生のモチベーションを高めるためには、英語が使える環境があることが一番良い。特に今後、オリンピックなど英語が色々と関わってくるので、そういうところでボランティアなど英語を使って何かできるような働きかけがあるとよい。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	教育局	・中小企業において深刻化する人手不足について、採用を後押しする取組みを進めていく必要があります。
9	畑野委員	中小企業の経営者にとって人手不足が非常に深刻な状態になっている。「高齢者、女性、若年者及び障がい者の就業支援」という記載があるが、あたかも中小企業が積極的にこのあたりの方々を採用しようとしていないから、仕事を求めている人の側に立って支援をしていくというような書き方になっている。中小企業の立場で言うと、ここに書かれているような方々にとにかく来てほしい、年齢が高くても、定年を無くしても構わない、給料下げなくてもよいとか、あるいは障がいがあっても構わない、来てほしいという状況だが、どこに話を持っていっても人が来てくれない。	二次評価(案)に反映しました	産業労働局	

NO	委員名	委員意見	対応	担当局(課)	二次評価
10	畑野委員	働き方改革ということで、長時間労働は駄目だと言われ、そんなことは以前から分かっていたが、「人手×時間」で仕事をこなしてきたということも事実としてある。それをいきなり、長時間労働は駄目で、人も来ないとなれば、中小企業にとっては非常にづらい状況になってきている。この地方創生推進会議の次のステップぐらいのところでは、もうひとつ違った視点もこの働き方とか就労の問題に関してはあってもよい。	総合評価欄に反映しました。	産業労働局 政策局	
基本目標 2					
11	三崎委員	最初に目にするのが二次評価欄になるため、29ページの1つ目の「県だけでなく市町村と広域で連携して実施する事業…」というのが、何を指しているのかが、あまりにも幅広い印象を受けてしまう。例えばどのような事業なのかということがイメージできる記載の仕方がないか。	ご意見を踏まえ、二次評価(案)の記載を修正しました。	政策局 産業労働局 国際文化観光局	概ね順調に進んでいます。  ・地域資源を活用した魅力づくりなど、県だけでなく市町村と広域で連携して実施する事業については、県として市町村との情報共有を密に行い、市町村の特性やニーズを尊重して、神奈川全体として取組みが必要なものについて取り組んでいく必要があります。
12	三崎委員	二次評価欄について、29ページのZEHという言葉がこの資料の中で一番最初に出てくるのがこのページになると思う。ここで言葉の説明があった方が親切。	ご意見を踏まえ、二次評価(案)の記載を修正しました。	地域政策課 産業労働局	・ZEH※について、住宅の施工主となる県民にそのメリットを伝えるほか、中小工務店にZEHのノウハウを伝える研修を行うなど、普及に向けた取組みを進める必要があります。
13	山崎委員	42ページ「2017年度の主な取組みと成果」の中の「観光資源の発掘と磨き上げ」にセーリングレガシーの記載があるが、むしろ小柱「三浦半島魅力最大化プロジェクトの推進」や「かながわシープロジェクトの推進」に記載するべきではないか。	ご意見を踏まえ、評価報告書を修正しました。	スポーツ局 県土整備局 地域政策課	・外国人観光客の誘致促進に向けた取組みについて、関係するKPIは大きく達成しているものの、数値目標「外国人旅行者の訪問者数(暦年)」の2019年の目標値まではまだ大きな開きがあるため、より効果的な取組みを進めていく必要があります。例えば、海外への情報発信については、日本在住の外国人を活用し、様々な国々のコミュニティなどを通じて自分が住んでいる地域の魅力について発信してもらうなど、幅広く取組みを行う必要があります。
14	富山委員	海のことでなく、マグカルもそうかもしれないが、もう少し各所で行われていることがリンクしていくとすごく効果的になるのではないか。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	政策局 国際文化観光局	※省エネと創エネで年間の一次エネルギー消費量が正味(ネット)でゼロになる住宅。
15	タパ委員	37ページのKPI「県西地域(2市8町)の年間入込観光客数」は達成しているが、箱根町だけでけっこうな数字であろうし、山北町や松田町などの観光客がどれくらいの数字があるのかは、ここでは分からない。そこをもう少し丁寧に取組みを進める必要がある。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	政策局	

NO	委員名	委員意見	対応	担当局(課)	二次評価
基本目標3					
16	三崎委員	二次評価欄に関して、小柱「結婚の希望をかなえる環境づくり」について、県の一次評価では「やや遅れ」となっているが、二次評価には結婚に対する取組みについての記載が一つもないため、これはどのように評価したのだろうという疑問が湧いてきてしまう。結婚に関する取組みについて、二次評価にも今後取組んでいく必要がある旨、記載したほうがよい。	二次評価(案)に反映しました	福祉子どもみらい局	概ね順調に進んでいます。 ・結婚・妊娠・出産支援について、結婚の希望をかなえる環境づくりや、妊娠・出産を支える社会環境の整備など、着実に取組みを進めていく必要があります。
17	タパ委員	総合分析欄で、「2016年度に「概ね順調」とされていた小柱のうち、5つの小柱が『順調』となった一方、4つの小柱が『やや遅れ』と評価を落としている」と記載があり、「やや遅れ」になってしまったものは、基本目標3(1)②「結婚の希望をかなえる環境づくり」と③「妊娠・出産を支える社会環境の整備」という、けっこう根幹的な問題が「やや遅れ」ている。「概ね順調」から「順調」になったものは、基本目標1(2)①「ロボット関連産業の創出・育成」などだが、これはこれで大事ではあるのが、人の結婚や子どもを産むところが遅れてしまうと、総合戦略もあと2年なので、各部署でこういった問題はKPIの数字以上に深刻に受け止めて、取組みを進めていかなければいけない。			福祉子どもみらい局 健康医療局
18	末永委員	基本目標3(1)③「妊娠・出産を支える社会環境の整備」について、KPIが「風しんの予防接種の件数」と「思春期から妊娠適齢期の男女を対象にした出前講座の実施企業・団体数」の2つしかない。例えば、基本目標3(1)④「子育てを応援する社会の実現」に設定されている待機児童のKPIを、③「妊娠・出産を支える社会環境の整備」にも記載するなどKPIの同じ項目が、色々な小柱にあってもよいのではないか。	ご意見については総合戦略の改訂により検討してまいります。	健康医療局 地域政策課	から見ても取り組む価値があるということが分かるよう示した上で取組みを進めていく必要があります。 ・男性の育児休業について、その取得率だけでなく、実際に何日休んだのかなどを把握・分析した上で、効果的な取組みを進める必要があります。
19	浦川委員	難しいとは思いますが、「隠れ待機児童」の解消、実際に待機は表面化していないのだけでも、もし子どもを預かってもらえる場所があれば、実は働きたいというニーズのくみ上げや吸い取り、そういったものが、他の県との差別化になるのかと思う。一つの事例としては、民間活力を導入した事業所内保育が考えられる。働く場の提供とお子様を預かる場の提供、待機児童と隠れ待機児童の解消といったことを盛り込んでいくとよい。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	福祉子どもみらい局	
20	今村委員	もう少し保育園の環境や収容のところでゆとりがあるとよい。妊娠が分かった瞬間、保育園を探し始めるということが現状。そのあたり、神奈川の場合は、別に4月から入園できなかつたとしても、どこか年の途中でもしっかりと入園の枠があるというようなものがあるとよい。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	福祉子どもみらい局	

NO	委員名	委員意見	対応	担当局(課)	二次評価
21	浦川委員	いっしょに出勤して、いっしょに帰れるという、働く場所と保育所の場所が同じということがすごく大事。従来の独立した保育所ではなく、働く場所と保育施設を一緒にしたような考え方の推進、これを神奈川県独自で取り組んでいくとよい。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	福祉子どもみらい局	
22	齊藤委員	(国の来年度の予算要求の中で)人口が集中しないような、起業できる人が過疎のところに行って起業できるのであればそれに対するサポートを行うなども検討されているが、そういったことも考えに入れた上で、子育てしやすい環境をもっと全県の中でできるような施策というものがあってもよい。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	政策局 産業労働局	
基本目標 4					
23	三崎委員	基本目標4の二次評価に関し、「交通のボトルネックの解消」という言葉は、分かる人には分かると思うが、違う優しい言い回しがないか。分からない方もいる言葉はなるべく使わないほうが良い。	ご意見を踏まえ、二次評価(案)の記載を修正しました。	県土整備局	<p>概ね順調に進んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空き家対策については、市町村の「空き家等対策計画」の策定に向けた支援などにより、適正管理や利活用について、引き続き進めていく必要があります。</li> <li>・ 鉄道の延伸や幹線道路の整備はもちろん、道路と鉄道の立体交差化など交通のボトルネック※の解消にも、引き続き取り組んでいく必要があります。</li> </ul> <p>※道路の交差点や踏切など、交通渋滞を引き起こしている箇所。</p>